

# でんでんくん



でんでんくん



きめたくん



つちこちゃん

No.3 平成29年7月21日

発行：秋田県立聴覚支援学校内 きこえとことば支援センター

## 夏場の補聴器・人工内耳の管理について

汗ばむ季節になりました。夏場の補聴器や人工内耳の管理はとても重要です。

水や汗が補聴器や人工内耳につくと、どうなるのでしょうか？

汗には、水だけでなく塩分も含まれています。そのため、電池や補聴器・人工内耳がさびて故障の原因となります。汗をかいたときは、補聴器や人工内耳をきれいに拭き取り、乾燥させましょう。

また、精密機器ですので熱にも十分注意が必要です。直射日光が当たる窓際や車のダッシュボード等、高温になるところには置かないように注意しましょう。

### 湿気や汗・水濡れ対策・管理はしっかりできていますか？

#### ◆汗カバー

カバーが汗を吸い取り、補聴器内部に汗が浸入するのを防ぎます。しかし、汗でぬれたカバーをつけたままにするとかえって逆効果です。何枚か準備して、ぬれてしまったら乾いたものと交換することが大切です。

#### ◆補聴器の保管方法

補聴器の大敵である水分から守るために、乾燥ケースに保管しましょう。夜、寝るときの保管だけでなく、特に夏場は、プール学習等で補聴器を外す場合など、乾燥ケースに保管しておくとういでしょう。



乾燥ケース(例)



・乾燥剤が必要なタイプのものは、乾燥剤の交換時期に注意しましょう。

・汗カバーや電池は、外します。

・電池ホルダーは開けたままにします。

**★電池は乾燥ケースの中には入れないようにしましょう！**

#### ◆水遊び、水泳学習での留意点

ごく一部のものを除き、補聴器には防水機能がないので水泳の時は外さなくてはなりません。そのため、次のことを子ども達と確認して下さい。

①水遊びや水泳の前に補聴器を外す。

②補聴器を〇〇に入れて□□に置く。(例えば、乾燥ケースに入れて保健室に預ける等)

③水泳後は耳や耳の中、髪の毛などをよく拭いて乾かしてから補聴器をつける。

耳の中がぬれたまま補聴器を装着すると外耳道が炎症を起こすことがあります。水泳後は耳の中をよく乾かす必要があります。

また、補聴器を外しているときには、指示等の聞き取りは困難になります。そのため、以下のような配慮が必要です。

①前もって教室で話せることは話しておく。

②動き方を具体的にモデルで示すなどして、視覚的に指示や学習内容を理解できるようにする。

③手のサインや身振りで合図を出す。(子どもと事前に合図を決めておくとうい)

白井一夫・小網輝夫・佐藤弥生 編著『難聴児・生徒理解ハンドブック 通常の学級で教える先生へ』一部引用改変

# 言語検査等について

本校では、ALADJIN（感覚器障害戦略研究）に基づいて、幼児児童生徒の実態に合わせての各種検査を行っています。

## ○標準化検査による評価

・各種検査で語彙力、構文力、談話力、言語性コミュニケーション力、認知能力等を客観的に評価

## ○言語行動の観察：日常会話の言語／コミュニケーション行動観察

検査の実施→結果→分析→評価 ← 言語行動の観察



★検査の結果と日常の言語行動の観察を照らしあわせ、実態と課題を明確にし、指導につなげる

### 検査結果で得られた情報は・・・

- 今まで取り組んできた配慮・支援が適切であったかどうかの確認
- これから取り組もうとしている配慮・支援が適切であるための根拠
- 子どもの短期的・長期的ゴールの目安
- 取り出しなどの特別な場での支援の焦点化
- その他のアセスメントの必要性の検討
- 専門機関(医療機関)へつなげる必要の有無の判断の一つ

\* NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ 安住ゆう子「アセスメントの解釈と活用」引用

### ○各種検査の紹介(一例)

語彙理解	<p>★絵画語い発達検査 (PVT-R)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な語彙の理解力の発達度を評価。検査者が単語を音声提示。当てはまる図版を4択から選択。</li> </ul> <p>★抽象語理解力検査 (SCTAW)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象語の理解力を評価。文字カードを音読し、図版を6択から選択。</li> </ul>
談話能力	<p>★質問-応答関係検査 (TQAID)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の質問-応答でコミュニケーション場面に近い状況でのやりとりの様子から日本語言語性コミュニケーション能力を評価する。</li> </ul>
統語(構文)の発達	<p>★失語症構文検査 (STA)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構文の理解及び産生の能力を評価。「聴覚的理解」は検査者が問題文を読み上げ、4択の図版から選択する。「読解」は提示した文字カードに該当する絵を図版から選択する。「産生」は図版を見て、簡単な文章を作る。</li> </ul>

\*その他にも「読み書きスクリーニング検査 (STRAW)、レーヴン色彩マトリックス検査 (RCPM)、フロスティック視知覚発達検査 (DTVP)、ベントン視覚記銘検査 (BYRT)、語流暢性検査 (WFT)、WISC-IV等の検査を行っています。校外での実施もしておりますのでご相談ください。

## 校内支援より



今年度から支援部内に校内支援の役割も加わりました。各学部の授業参観や授業研究会を通して、聴覚に障害のある子どもたちへの配慮の仕方について共に考えたり、情報提供をしたりしています。本校には、幼児から高等部専攻科生までの幅広い年齢の幼児児童生徒が在籍していますが、教科学習のねらいの達成に導くための聞こえに関する配慮の中には、年齢にかかわらず共通しているものがあります。いくつかご紹介いたしますので、参考になさってください。

### <教師の配慮点>

- ・学習活動に集中できるよう、「聞く(見る)時間」「書く時間」「考える時間」をきちんと分けて提示する。
- ・「何が分かったか」、「何が分からなかったのか」を、子どもの意欲や自信を尊重しながら確認する。
- ・「なぜか」「この後どのようになると思うか」など、子ども自身が考えを深められるような発問をする。
- ・「もう一度まとめて説明してください」など、子ども自身が正しい文の形で答えることを求める。

難聴に関すること、補聴器に関すること、毎日の授業についてお気軽にご相談ください。

きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3-127